

18. 多文化共生の認知度について

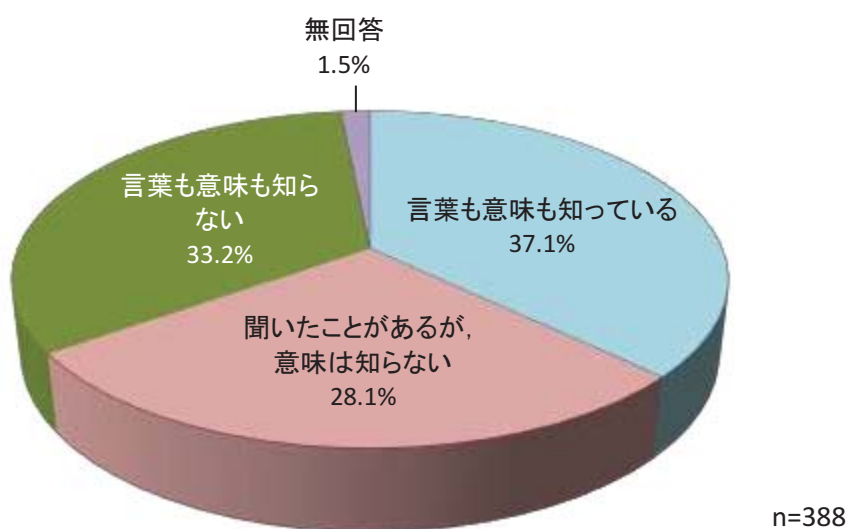
(1) 多文化共生の認知度

◇ 「言葉も意味も知っている」が4割弱

問65 宇都宮市では、外国人と日本人が、言葉や生活習慣などの文化的違いを互いに認め合い、共に支え合うまちづくり（多文化共生）を進めています。あなたは、「多文化共生」という言葉を知っていますか。 (○は1つ)

	n=388
1 言葉も意味も知っている	37.1%
2 聞いたことがあるが、意味は知らない	28.1%
3 言葉も意味も知らない	33.2%
(無回答)	1.5%

<図IV-18-1>全体



多文化共生の認知度については、「言葉も意味も知っている」が37.1%で最も高く、次いで「言葉も意味も知らない」が33.2%、「聞いたことがあるが、意味は知らない」が28.1%であった。(図IV-18-1)

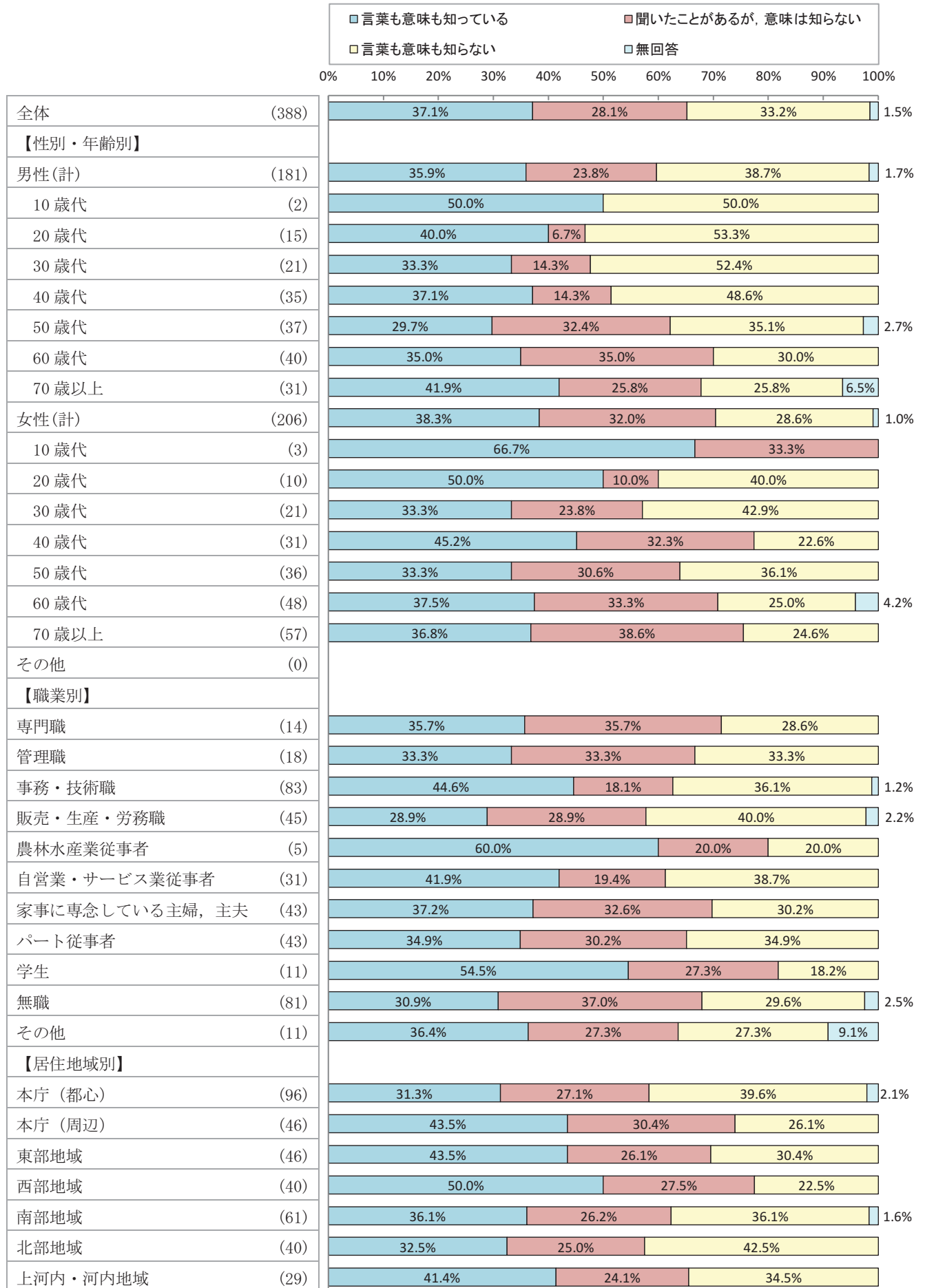
<参考>

性別・年齢別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<女性/10歳代>が66.7%で最も高く、<男性/10歳代>と<女性/20歳代>がいずれも50.0%と続いている。一方、「言葉も意味も知らない」は<男性/20歳代>が53.3%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が52.4%と続いている。(図IV-18-2)

職業別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<農林水産業従事者>が60.0%で最も高く、次いで<学生>が54.5%であった。一方、「言葉も意味も知らない」は<販売・生産・労務職>が40.0%で最も高く、<自営業・サービス業従事者>が38.7%と続いている。(図IV-18-2)

居住地域別で見ると、「言葉も意味も知っている」は<西部地域>が50.0%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>と<東部地域>が43.5%であった。一方、「言葉も意味も知らない」は<北部地域>が42.5%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が39.6%であった。(図IV-18-2)

<図IV-18-2>性別・年齢別／職業別／居住地域別

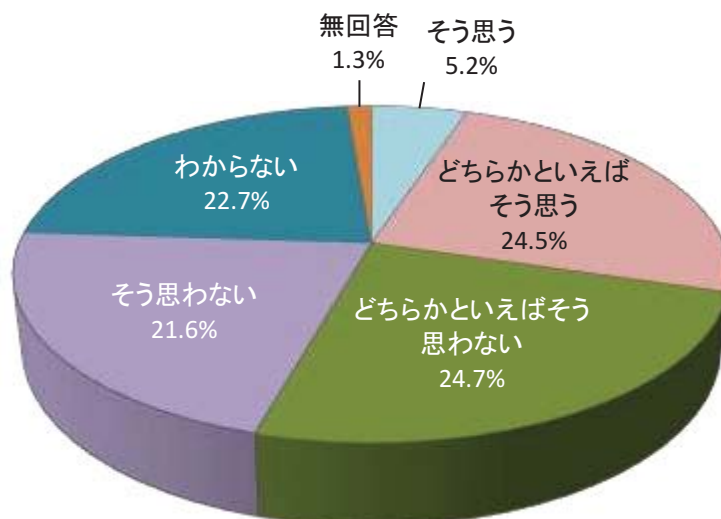


(2) 外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無

◇ 「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない(計)】が4割半ば

問66	あなたの周りや身近なところで、外国人と日本人が、お互いの文化的な違いを認め合えるような雰囲気があると思いますか。	(○は1つ)
		n=388
1	そう思う	5.2%
2	どちらかといえばそう思う	24.5%
3	どちらかといえばそう思わない	24.7%
4	そう思わない	21.6%
5	わからない	22.7%
	(無回答)	1.3%

<図IV-18-3>全体



n=388

外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無については、「そう思う」が5.2%、「どちらかといえばそう思う」が24.5%で、これらを合わせた【そう思う(計)】は29.7%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」が24.7%、「そう思わない」が21.6%で、これらを合わせた【そう思わない(計)】は46.3%であった。(図IV-18-3)

<参考>

性別・年齢別で見ると、【そう思う(計)】は<男性/20歳代>が53.3%で最も高く、<男性/30歳代>が42.8%と続いている。一方、【そう思わない(計)】は<女性/10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が58.1%と続いている。(図IV-18-4)

職業別で見ると、【そう思う(計)】は<管理職>が50.0%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が40.0%であった。一方、【そう思わない(計)】は<農林水産業従事者>が60.0%で最も高く、<専門職>が50.0%と続いている。(図IV-18-4)

居住地域別で見ると、【そう思う(計)】は<本庁(周辺)>が41.3%で最も高く、次いで<南部地域>が32.8%であった。一方、【そう思わない(計)】は<上河内・河内地域>が62.1%で最も高く、次いで<西部地域>が57.5%であった。(図IV-18-4)

<図IV-18-4>性別・年齢別／職業別／居住地域別

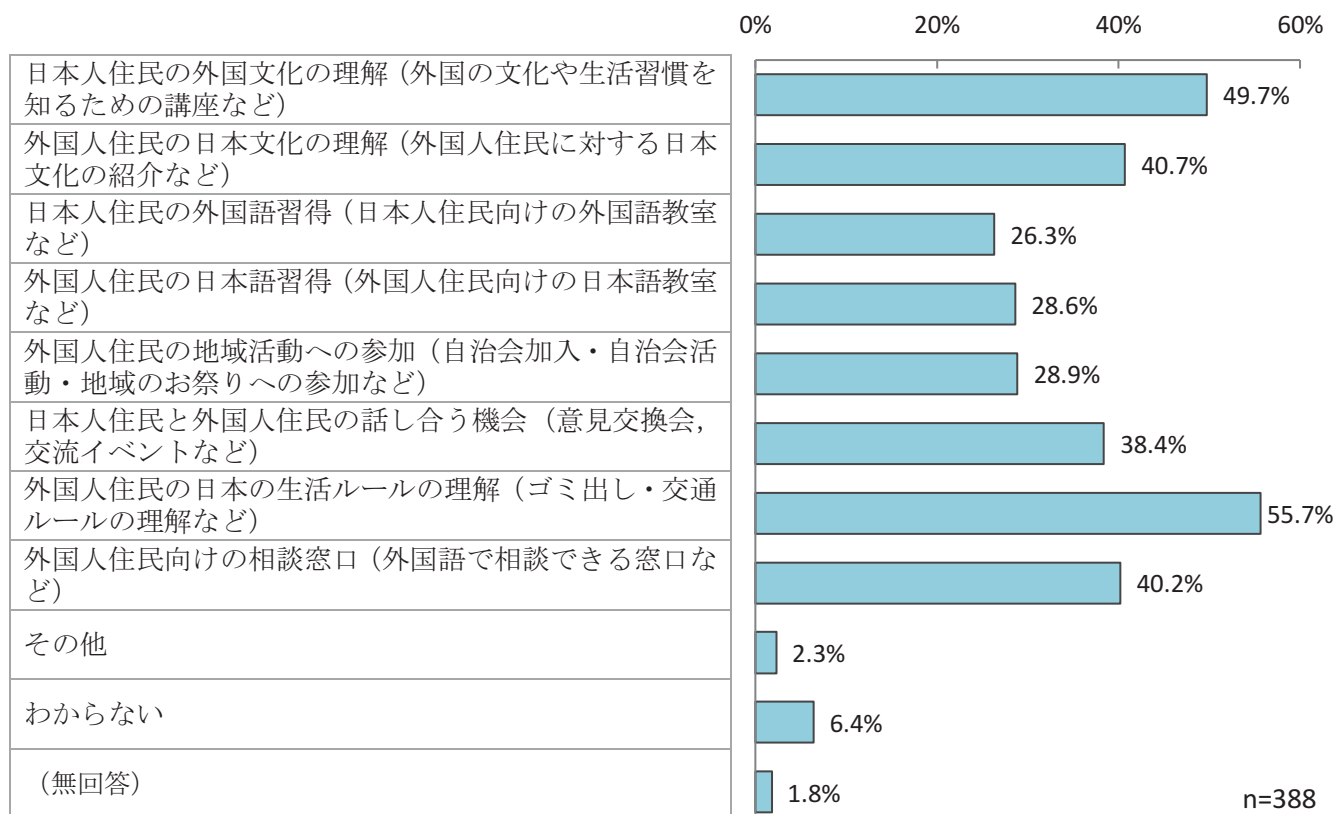


(3) 多文化共生の推進にあたり大切なこと

◇ 「外国人住民の日本の生活ルールを理解（ゴミ出し・交通ルールの理解など）」が5割半ば

問67 宇都宮市の「多文化共生」を進めるにあたり、何が大切だと思いますか。 (〇はいくつでも)		n=388
1	日本人住民の外国文化の理解 (外国の文化や生活習慣を知るための講座など)	49.7%
2	外国人住民の日本文化の理解 (外国人住民に対する日本文化の紹介など)	40.7%
3	日本人住民の外国語習得 (日本人住民向けの外国語教室など)	26.3%
4	外国人住民の日本語習得 (外国人住民向けの日本語教室など)	28.6%
5	外国人住民の地域活動への参加 (自治会加入・自治会活動・地域のお祭りへの参加など)	28.9%
6	日本人住民と外国人住民の話し合う機会 (意見交換会, 交流イベントなど)	38.4%
7	外国人住民の日本の生活ルールの理解 (ゴミ出し・交通ルールの理解など)	55.7%
8	外国人住民向けの相談窓口 (外国語で相談できる窓口など)	40.2%
9	その他	2.3%
10	わからない	6.4%
	(無回答)	1.8%

<図IV-18-5>全体



多文化共生の推進にあたり大切なことについては、「外国人住民の日本の生活ルールの理解 (ゴミ出し・交通ルールの理解など)」が 55.7%で最も高く、次いで「日本人住民の外国文化の理解 (外国の文化や生活習慣を知るための講座など)」が 49.7%と続いている。(図IV-18-5)

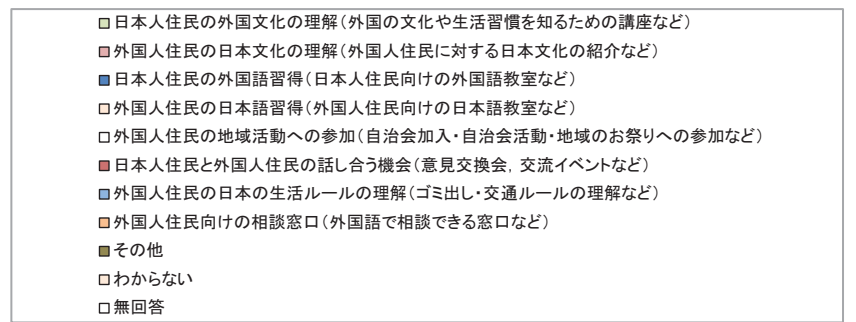
<参考>

性別・年齢別で見ると、「外国人住民の日本の生活ルールの理解 (ゴミ出し・交通ルールの理解など)」は<女性/10歳代>が 66.7%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が 64.6%と続いている。「日本人住民の外国文化の理解 (外国の文化や生活習慣を知るための講座など)」は<男性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>と<女性/10歳代>と<女性/30歳代>がいずれも 66.7%と続いている。(図IV-18-6)

職業別で見ると、「外国人住民の日本の生活ルールの理解 (ゴミ出し・交通ルールの理解など)」は<農林水産業従事者>が 80.0%で最も高く、次いで<専門職>が 64.3%であった。「日本人住民の外国文化の理解 (外国の文化や生活習慣を知るための講座など)」は<管理職>が 77.8%で最も高く、<学生>が 72.7%と続いている。(図IV-18-6)

居住地域別で見ると、「外国人住民の日本の生活ルールの理解 (ゴミ出し・交通ルールの理解など)」は<西部地域>が 62.5%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が 58.7%であった。「日本人住民の外国文化の理解 (外国の文化や生活習慣を知るための講座など)」は<南部地域>が 57.4%で最も高く、次いで<東部地域>が 54.3%であった。(図IV-18-6)

<図IV-18-6>性別・年齢別／職業別／居住地域別



全体	(388)
【性別・年齢別】	
男性(計)	(181)
10歳代	(2)
20歳代	(15)
30歳代	(21)
40歳代	(35)
50歳代	(37)
60歳代	(40)
70歳以上	(31)
女性(計)	(206)
10歳代	(3)
20歳代	(10)
30歳代	(21)
40歳代	(31)
50歳代	(36)
60歳代	(48)
70歳以上	(57)
その他	(0)
【職業別】	
専門職	(14)
管理職	(18)
事務・技術職	(83)
販売・生産・労務職	(45)
農林水産業従事者	(5)
自営業・サービス業従事者	(31)
家事に専念している主婦, 主夫	(43)
パート従事者	(43)
学生	(11)
無職	(81)
その他	(11)
【居住地域別】	
本庁(都心)	(96)
本庁(周辺)	(46)
東部地域	(46)
西部地域	(40)
南部地域	(61)
北部地域	(40)
上河内・河内地域	(29)

